

東京都新宿区北新宿1-8-16
東京土建一般労働組合
電話03 (5332) 3971 (代表)
FAX03 (5332) 3972
発行人・編集人
三木 勉

印刷部数11万1600部
(購読料は組合費のなかに含まれています)
(年間購読料 千八百円)
定価 五十円

けんせつ

東京土建のホームページ <http://www.tokyo-doken.or.jp/>

青年劇場9月公演 『もっ一人のヒト』

庶民の平和への喜びを描いた青年劇場の傑作喜劇です。「日時・会場」9月14日〜22日・紀伊國屋ホール。一般5150円が組合員特価4500円。申し込みは青年劇場 (03)5332-7200へ。

死の商人おどろおどろ

幕張メッセ 武器見本市に抗議

危険な「防衛装備移転」

戦争で金儲けは許さない

6月に幕張メッセで「MAST Asia 2019」という国際的な武器の見本市が開催されたのを存じて。2014年に「武器輸出三原則」に代わる政府方針として「防衛装備移転三原則」が閣議決定され、日本はこれまで築いてきた平和国家としての道を外れつつあります。このことに危機感を抱き、見本市の開催中止を求めて怒りの声を上げた「安保関連法に反対するママの会@ちば」の活動を紹介します。

6月17〜19日に千葉市の幕張メッセで国際的武器見本市「MAST Asia 2019」が開催。主催の同実行委員会委員長は元防衛大臣の森本敏氏。後援は防衛省、協賛は米海軍など。日本では2年前以来2度目の開催です。17日、幕張メッセ大ホール

前では開催に反対する市民ら約2300人が集まりました。呼びかけは「幕張メッセでの武器見本市に反対する会」。その母体「安保関連法に反対するママの会@ちば」(以下ママの会)のメンバーの金光(かなみつ)理恵さんは、「なぜ、戦争がなくならないか。

それは戦争が起こると、お金の儲かる人たちがいるから。その人たちは今ここにいます。です」とマイクで訴えました。参加者全員が手をつないだヒューマンチェーンで広場全体を結び、日本語と英語で武器はいらない、「戦争反対」などとデモコール。そしてダイイン(犠牲者に擬して大地に横たわるパフォーマンス)を行ない抗議しました。

千葉県だけの問題ではない

金光さんによると、「ママの会@ちば」の結成は2019年7月中旬、戦争法で5年めの頃で、京都で西郷南海子さんが発起人となりできた「安保関連法に反対するママの会」に日本中が呼応し、千葉でも「ママの会」ができたのだといいます。2年前は抗議しようと思ったのが開催3週間前でしたが、今回は去年の10月末に「メッセでの武器

死守、軍需予算を福祉へ、市民の幸せを祈るのみです。朝から豆腐を作る姿を見ていたそうです。氏神様を大切に、町内会や商店街と力を合わせ、母や兄弟姉妹を育て上げた祖父の姿を私は時々思い出し、平和を願わずにおれませんでした。私の父方の家族も疎開した経験があったり、貧しくて芋しか食べる物がなかったり、苦労した話を聞きました。平和で夢に向かって頑張りが続けられるような未来を子ども達に手渡さなければいけません。伝えられた記憶を平和への誓いにします。



訴える「ママの会」の金光さん

見本市に反対する会」を別に立ち上げ、もっと大がかりな行動しようとして他団体に呼びかけたそうです。「もう千葉県だけの問題ではないわけですよ。武器輸出三原則を撤廃し、防衛装備移転三原則になったことは日本全体の問題」と話す金光さん。11月に幕張メッセで開催予定の武器見本市「DS EI JAPAN 2019」の阻止に向けて全力で連帯の輪を広げていく予定。「ママの会」の闘いは、まだまだ続きます。



幕張メッセ大ホール前で、武器見本市に抗議してのダイイン

暴力と悲しみの日常

戦争体験者は声を大きく

【西多摩 大工・米原光義】小学校2年生の時(昭和10年)、街の十字路で20人位の朝鮮の部落の人達を集め、サーベルを持った警察官が取り囲み、見るに耐えない暴力を振るう姿を見て、なんでこれ程ひどい事をするのかと、子ども心に強い衝撃を受けました。

関東大震災以後、何かにつけ事件があると朝鮮人だと決めつける時代です。韓国併合の名のもとに植民地時代で、

平和な世界を残したい

通常のこの様に行なわれていました。私の家より巖流島が見え、其の向こうに九州。毎日のように軍用船が通過。甲板上では顔は見えぬが最後の別れ、手を振っている。母と門司港へ兵隊さんを見送り、「元気でね。サヨウナラ」。泣きたい気持ちを押し、出航した後、涙しながら立ち去ろうとしたか。今では想像も出来ません。私も戦争を体験した者が、後世代の人達に声を大に

祖父の姿を思い出す 子ども達に未来を

【三鷹武蔵野・主婦・桜井直子】私は高度経済成長期に生まれ、豊かに過ごすことができました。私の母は幼い時に終戦を迎えたのですが、祖父父母が戦後の区画や登記が無くなって荒れていた東京の片隅で豆腐屋を始め、毎日早

と、あちこちの自治体で平和展が開催される。実際にいくつかの平和展を見学してみた。共通したテーマは核兵器の被害と地元の空襲被害に関するもので、中学生や高校生が平和学習の成果も発表されていた。玉砕する兵士、相次ぐ空襲、地上戦が戦われた沖縄、広島・長崎への原爆投下、こうした惨禍の事実を忘れてはならない。しかし、なぜ、誰の責任で戦争が起こされたか、日本の軍隊はアジア諸国民にどれだけの被害を与えたのかなど、侵略戦争の真実に迫る展示は少ない。

夏になると、あちこちの自治体で平和展が開催される。実際にいくつかの平和展を見学してみた。共通したテーマは核兵器の被害と地元の空襲被害に関するもので、中学生や高校生が平和学習の成果も発表されていた。玉砕する兵士、相次ぐ空襲、地上戦が戦われた沖縄、広島・長崎への原爆投下、こうした惨禍の事実を忘れてはならない。しかし、なぜ、誰の責任で戦争が起こされたか、日本の軍隊はアジア諸国民にどれだけの被害を与えたのかなど、侵略戦争の真実に迫る展示は少ない。